

富山市定例市長記者会見（令和4年9月1日）

■冒頭

市長

皆さん、お疲れ様です。お忙しい中、報道関係の皆さんには、お集まりいただきまして、感謝申し上げます。それでは早速、始めさせていただきます。

■中規模ホールの開館日の決定について

市長

中規模ホールの開館日について、一部報道にもあったとおりであります。オーバード・ホールの北側に整備を進めております中規模ホールは、昨年6月の着工以来、今年度末の竣工、令和5年度中の開館を目指してまいりました。

現在、建設工事は順調に進捗しており、このたび、ホールの開館日を正式に決定いたしましたので、お知らせいたします。

開館日は、来年の7月1日（土）といたします。今年度末の竣工後、来年4月以降、大道具や楽器等の搬入や、スタッフの習熟期間を経て、開館を迎えるものです。

開館日当日は、「記念式典」や「こけら落とし公演」を予定しております。その内容が固まり次第、改めてご報告申し上げたいと思います。

また、来月1日からは、ホールの貸館について、仮予約の受付を開始することとしています。

建設現場では、工事が日々、着々と進んでおり、ホールの全体像も明らかになってきています。市民の皆さんの期待感もそれにつれて高まってきているものと考えております。

今後も、中規模ホールに関する情報を、さまざまな機会を通じてお伝えしていきたいと思えます。皆さんとともに、開館に向けた意識の醸成を高めていって、開館の日を迎えたいと思っています。

■富山映像大賞イベント 映像講座の開催について

市長

映像を通して富山市の魅力を発信し、まちなかの継続的な賑わいを創出することを目的に「富山映像大賞」を3年に一度のトリエンナーレ方式で開催することとしており、今回は令和5年度に開催いたします。それに先駆け、今年度は本事業のイベントとして、市民向けの映像講座を総曲輪通りの「ほとり座」で開催いたします。

本講座では、身近なスマートフォンなどを使い、映像制作の流れや撮影方法、編集のポイントなどを映像制作会社のスタッフがわかりやすく説明します。3月4日の最終回には、映画監督の本木克英氏に映像制作の魅力を語っていただくことも企画しております。

受講者の募集は、本日9月1日（木）から12月1日（木）までとしておりますが、定員を30名としておりますので、定員になり次第、締め切りとなります。

この映像講座に参加することで、映像芸術の魅力や文化に触れるきっかけにいただければ幸いです。

■報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

市内の感染者数は、お盆明けの18日から20日に、1,000名を超える日が続きました。（8月）23日には1,103名と過去最多の人数となり、最近も700名を超え、高止まっているという認識です。

また、県内の入院患者は増加傾向となっております。

高齢者や基礎疾患のある方、また、これらの方と日常的に接する機会がある方は、改めて感染対策の徹底をお願いいたします。

なお、国では、8月24日に、新型コロナウイルスの感染拡大により、業務が逼迫^{ひっ}している医療機関や保健所の負担軽減のため、感染者の全数把握の方法を見直し、都道府県の判断で、個人の情報を伴う発生届を、高齢者などの重症化リスクが高い人に限定できるようにする方針を示されました。

本市といたしましても、中核市市長会などを通じて要請してきた経緯もありますので、医療機関や保健所の負担軽減につながるものと歓迎しております。

一方、今回の見直しは、報道等にもあるとおり、発生届対象外の人を含む、感染者全員の年代別の人数を毎日公表することが前提とされていることから、医療機関からの報告を集計するための仕組みづくりや、自宅療養中に体調が変化した際の相談窓口である「健康フォローアップセンター」の設置など、各自治体で新たな対応が必要となると認識しております。

このため、県において、発熱外来を含む医療体制の状況や、医師会など関係者の意見を聞きながら、方向性を判断されると伺っておりますので、本市といたしましては、県と十分に連絡調整しながら、県の方針に従って、適切に対応していきたいと考えております。

なお、昨日より、県において、「新型コロナ陽性者登録センター」を設置されました。薬局などでの無料検査や国が承認した抗原検査キットなどで陽性が判明した方が、検査結果などをインターネットを通じて申請し、センターの医師がその内容をもとに診断し、陽性者として登録するものです。

県内で感染が拡大する中、発熱外来に患者が集中し、重症化リスクが高い方が受診できなくなることを回避するための措置であり、軽症の方や重症化リスクの低い方は、医療機関を受診せず、このセンターで登録していただくよう本市としてもお願いしたいと考えております。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてご報告いたします。

本市における、接種状況につきましては、お手元の資料のとおりであります。8月31日現在で、3回目となる追加接種を受けられた方は、277,769人、全人口に対する接種率は67.1%となっております。

また、4回目接種を受けられた方は、90,095人となっており、このうち60歳以上の方は79,793人、率にして54.3%となりました。

4回目接種とあわせ、引き続き1、2回目や3回目接種も実施しておりますので、まだ接種がお済みでない方は、ぜひとも接種していただきますよう、お願いいたします。

■ 質疑応答

記者

先日、国の検討会で地方鉄道の存廃に関する提言が取りまとめられました。これに対する市長としての受け止めや、このような国の動きを捉えた上で、高山本線の活性化策をどのように行っていくのか、お聞かせください。

市長

地方鉄道の存続、廃止の議論につきましては、人口減少やマイカーの普及、新しい生活様式など、社会情勢の変化により避けては通れない問題と認識しており、このたびの提言を受けて、今後は全国的に沿線自治体と鉄道事業者の間での議論が進んでいくものと認識しております。

一方、本年4月11日にJR西日本が「ローカル線に関する課題認識と情報開示について」のプレス発表をされ、1キロ当たりの輸送密度が2,000人未満の経営の厳しい17線区について情報開示されるとともに、関係自治体等と地域旅客運送サービスの確保に関する議論や検討を幅広く行いたいというお考えを示されました。

高山本線は情報開示された 17 線区には含まれていませんが、今回の提言に先駆けて、これまで増便運行をはじめ、新駅（婦中鷓坂駅）の設置、トイレや駅前広場ならびにパークアンドライド駐車場などの整備により活性化に取り組んでまいりました。先般、越中八尾駅でも、パークアンドライド駐車場を整備いたしました。

また、令和 2 年度には本市と富山県、JR 西日本の三者で「高山本線ブラッシュアップ会議」を立ち上げました。今年度新たな取り組みとして、高齢者向け運賃施策の「シニアおでかけきっぷ」や、今後の活性化施策の検討に供するために、AI カメラを高山本線の各駅に設置し、人流の計測あるいは属性などについて計測を進めており、今後はそのデータも活性化に役立てていきたいと考えております。

地域公共交通は市民の生活の足として、通勤、通学、高齢者、運転免許証を返納された方なども含めて、そのような方々の大切な足として、ますます重要な役割を果たしていくと認識しております。今年度新たに「地域公共交通の活性化に向けた支援」を富山市として国への重点要望に加え、国や国会議員に対して、先般、要望を行ってまいりました。その結果、国の来年度概算要求に、鉄道事業者と地域の共創に対する支援が新たに事項要求として盛り込まれたところです。

支援の詳細は来年度予算の検討過程でこれから具体化されていくものと考えておりますが、こうした国等の動向を注視しながら、今後も地域公共交通の維持、活性化に努めてまいりたいと考えております。

ご承知のとおり、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりにおいて、高山本線をはじめ、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道などの鉄軌道、市内循環の LRT などを含めて、非常に重要な位置を占めております。今後、スマートシティの政策を担ううえでも、コンパクトシティを深化していくということにおいて、鉄軌道の活性化、地方公共交通の活性化は、本当に大切なファクターのひとつでありますので、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

=====

記者

中規模ホールの開館日について、9月定例会に関連の条例案を提出されると思いますが、その中で、7月から（利用）開始されるのは練習室等で、10月から（利用開始されるの）がホールとなっていました。一般の方（の利用）は（10月からでしょうか）。

市長

そうです。一般（の方）は（10月から利用開始になります）。これは議会の中でも明らかにしていきますが、今おっしゃったとおり、開館から3カ月あまりは市の主催行事、市が主にスケジュールを組んで進めてまいりたいと思っています。10月以降は、一般の方々のホールの使用も、どんどん申し込んでいただきたいと思います。

記者

3カ月間は習熟度を高めるといった期間なのでしょうか。

市長

そうですね。こけら落とし公演を皮切りに、市や市民文化事業団等で、オーバード・ホールなどの運営も含めて、ある程度、市が主体となって計画して公演を組んでいきたいと考えております。

=====

記者

先日発表された9月補正について、どのような思いを持って予算編成されたのか、お聞かせください。

市長

9月補正であります。例えば、先般も報道していただいたように、生活困窮世帯に対して、燃料費などの値上げにより電気代やガス代が上がっていますので、そのような部分の手当、困っている方々にしっかりとピンポイントで支援が届くように配慮したということです。

また、長引くコロナ禍とウクライナ情勢などを受けて、物価高が非常に

進んでおりますし、今後ますます上がってくると実感しています。

特に農業分野ですが、実際、既に値上がりしておりますので、農業資材や肥料、飼料なども含めて、値上がり分に対して支援していきたいと考えております。

他には、やはり新型コロナウイルス感染症対策ですね。それについても、しっかり予算を計上していきたいと思っております。

(また、) 経済対策の一つ(として、既に始まっている事業)であります。キャッシュレス決済ポイント還元事業について、これは過去2回実施しております。大変好評であり、期日を待たずに打ち切りになるということもあります。今回5億円分をポイント還元するということですが、25億円あまりの経済効果を見ておりますので、皆さんにご利用いただいて、市内に経済(対策)の効果が波及するようにしていきたいと考えています。

記者

昨日、岸田総理がオミクロン株に対するワクチンを前倒しするという発表がありました。現時点で国からの情報がどこまで来ているのかわかりませんが、現状のワクチンも早く打って欲しいと訴えている中、富山市民も含めて、どうすればいいのかわからないという戸惑いの声も聞かれます。前倒しするワクチンのスケジュールなど、藤井市長の中で何か考えがあればお聞かせください。

市長

まだ県を通じて、あるいは国からは直接、詳細な情報が入ってきていないので、今おっしゃったとおり、(オミクロン株に対応したワクチン接種について、)9月に前倒し(するという岸田総理の発表)までに止まっております。ただ、本市といたしましては、富山市医師会をはじめ医療関係者の皆さんとは、スケジュールの前倒しに対応できるように、ワクチンが来れば間髪入れず提供できるように、現在、協議を進めておりますので、受け入れ準備、これは着実に進めているところであります。

記者

旧統一教会に関連して伺います。岸田総理が、自民党として団体（旧統一教会）との関係を断つというコメントを出されました。藤井市長も先日の記者会見で、今後は関係を断つとおっしゃったと認識しています。改めて、自民党として岸田総理の今回の対応についての受け止めをお聞かせください。

市長

総理が旧統一教会との関係を断つと言われたことは、非常に重い発言だと思っております。自民党の総裁でありますので、総裁として、自民党所属の議員すべてに、あるいは自民党籍を持っているものすべてに対して発信されたのではないかとというように、私も重く受け止めております。

記者

安倍元総理の国葬について伺います。全国でさまざまな議論がある中で、今月 27 日に行われる予定で進んでいますが、国葬の是非について、藤井市長の考えをお聞かせください。

市長

是非の考えということではありますが、その前に安倍元総理であります、私もお指導を受けておりましたので、本当に残念な事件だったと思います。改めまして、心からご冥福をお祈りしたいという気持ちでいっぱいであります。

国葬の是非ではありますが、国内外へのさまざまな政策などについて功績があったということで、政府が判断されたことでもありますので、私からその是非について申し上げることはございません。

ただ、国会で岸田総理が自ら自分の言葉で説明されるということを報道で知りましたので、そのようなことは非常に大事なことだと（思います）。なぜ国葬に値するのか、あるいはそれに係るさまざまな経費なども含めて、どのような準備が必要になるのかということも、そこで明らかになるとおもいます。

(国葬の) 是非については、私が申し上げることではないと思います。

記者

国葬に参列される予定はありますか。

市長

今のところ、(国葬の) 招待状といったものはないわけでありますので、具体的にそのようなものが届けば、どのように(対応)するか、それから判断したいと思っています。

記者

国葬に関連して、全国の自治体では学校に半旗掲揚の通知があったということで、賛否の話がありますが、富山市として半旗掲揚など具体的な話がありますか。

市長

その議論もこれからであり、一つは市当局として、一つは教育委員会としてという話だと思いますが、今後しっかりと庁内で議論していきたいと思っています。教育委員会でも議論されると思います。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課